

報道関係各位

株式会社 U B I C  
代表取締役社長 守本正宏  
東京都港区港南 2-12-23  
(コード番号: 2158 東証マザーズ)

“eディスカバリ業界最高レベルの精度”と“作業時間の大幅な短縮”を実現する

「Advanced Predictive Coding」を開発

多くの機能改善を実現した「Lit i View」バージョン6.0提供開始

戦略的な国際訴訟対応のためのソリューションを提供する株式会社 UBIC（本社：東京都港区、代表取締役社長：守本 正宏、以下 UBIC）は、自社開発の e ディスカバリ証拠開示・支援システム「Lit i View」（リット・アイ・ビュー）において、以下、3つの大きな機能改善を実現したことを発表致します。

1. **Advanced Predictive Coding**: 自社開発した Predictive Coding の大幅な機能改善をすることで、業界最高レベルの精度と作業時間の大幅な短縮を実現しました。
2. **リティゲーションホールド支援機能**: リティゲーションホールド工程の煩雑なワークフローを改善するための機能です。
3. **ビッグデータ対応**: 膨大なデータを短時間で処理することが可能になります。

これら新機能は、2013年1月31日より提供開始される、「Lit i View」バージョン6.0に搭載されます。尚、本製品は、2013年1月29日から31日までニューヨークで開催される、米国で最大のリーガルテクノロジー展示会「Legal Tech New York 2013」で展示されます。

「Advanced Predictive Coding」は、e ディスカバリ支援作業の中で最も時間とコストがかかるレビュー工程（訴訟関連文書を閲覧・抽出する作業）において作業時間を大幅に短縮し、業界最高レベルの精度を実現します。すなわち、訴訟に関連する文書を早い段階で見つける事が出来るため、訴訟戦略を有利に導くことを可能にします。

新機能の主な特徴は以下の通りです。

### Lit i View v6.0 に搭載の新機能

#### 【Advanced Predictive Coding】

従来の「Predictive Coding」は、案件毎の特徴的なキーワードや、サンプルレビューされた文書の判定結果（教師データ）に基づき、UBIC 独自のアルゴリズムによってキーワードの重み付けを行い、証拠開示対象となる可能性の高い文書の自動抽出を可能にする機能です。「Advanced Predictive Coding」では以下の4つの機能を追加することにより、レビュー工程において業界最高レベルの精度と作業時間の大幅な短縮を同時に実現しました。



### **Progressive Predictive Analyzer \* :**

Progressive Predictive Analyzer はレビューした結果を自動的に教師データとして取り込み、「Predictive Coding」を進めて行く機能です。これにより、今まで人間が行っていた教師データの対象を選定する作業や、「Predictive Coding」の対象を選定する作業を自動化することが出来るため、作業時間の大幅な短縮が可能になります。

### **Weight Refinement \* :**

Weight Refinement は Predictive Coding の精度向上に寄与する機能です。従来の Predictive Coding では教師データに含まれているキーワードの重み付けを一面的な観点から算出していましたが、Weight Refinement ではキーワードの重み付けを多面的な観点から算出するロジックを取り入れることで、重み付けの仕組みの精度を向上しました。これにより Predictive Coding の再現率は 90%以上に向上します。

### **クラスタリング機能の改善\* :**

クラスタリングは文章の内容が同じもしくは類似した文書を自動的に抽出しグループ化する機能です。今回の改善点は Predictive Coding で証拠開示対象可能性が上位に位置づけされた文書群に適用出来るようになったことと、さらに文書群を各レビューアーに振り分けるバッチ (Batch) で使用出来るようになったことです。Predictive Coding で抽出された証拠開示対象可能性が高い文書を内容によって効率的に仕分けることが出来るため、レビューの作業効率が改善されます。

### **データ分類支援機能 (Pallet Structure)**

レビュー対象として抽出されたデータを分析し、ディレクトリ形式でデータを分類することができる機能です。データの処理・分析からレビューに移行する際のデータの並べ替えが詳細に設計できるため、レビュー工程への過程において作業効率が改善されます。

\*Progressive Predictive Analyzer、Weight Refinement、クラスタリング機能に関してはいずれも特許申請中

### **【リティグेशनホールド支援機能 (Litigation Hold)】**

訴訟案件関係者に対してメールやアンケートなどでヒアリングを実施し、カストディアン（証拠保持者）を特定することができ、さらにリティグेशनホールドの通知や履歴を管理することができる機能です。これにより、複数の訴訟案件に関わるカストディアンのリティグेशनホールド対応状況を一元管理し、部署間で情報共有することが可能になります。煩雑なカストディアン特定作業を改善することで、リティグेशनホールドの作業効率向上を支援します。

### **【ビッグデータ対応】**

ビッグデータは大量のデータを許容出来る時間内に効率的に処理するための特別な技術が必要とします。ビッグデータの対応を実現することで、膨大なデータを短時間で処理することが可能になりました。

今回リリースする Lit i View v. 6.0 は、e ディスカバリ支援サービス業界でのリーダーを目指す UBIC の技術と研究開発の成果を結実させたものです。社長の守本正宏は「今後ますます増加する膨大な量のデータをより速く、より精度よく処理していくためには従来のヒューマンレビューに加えて Advanced Predictive Coding のような最新技術をいち早く取り入れる決断が重要です。技術志向の会社である UBIC は今後も市場要求を製品開発のロードマップに反映させ、最新の機能をいち早くソリューションとして提供していく所存です。」と述べております。



## UBIC リーガルクラウドでの提供について

シェアド・プライベート・クラウドとしてのサービス提供を基本としており、eディスカバリ支援システム「Lit i View」(リット・アイ・ビュー)と、それを利用するための各種ソフトウェア環境をSaaSとして提供するばかりでなく、さらに、それを利用したリーガルプロセス支援サービスまでをワンストップで提供します。セキュリティや冗長性といった安全面の機能を担保しながら、同時にシステム運用のコスト低減を実現します。

### 【UBICについて】

代表取締役社長：守本 正宏 東京都港区港南 2-12-23

URL: <http://www.ubic.co.jp/>

株式会社UBICは、国際的カルテル調査や連邦海外腐敗行為防止法（FCPA）に関連する調査、知財訴訟、PL訴訟などで要求される電子データの証拠保全及び調査・分析を行うeディスカバリ事業（電子証拠開示支援事業）のほか、電子データ中心の調査を行なうコンピュータフォレンジック調査サービスを提供する、リーガルハイテクノロジー総合企業。アジア言語対応能力では世界最高水準の技術と、アジア圏最大の処理能力を有するラボを保有。2007年12月米国子会社を設立。アジア・米国双方からアジア企業関連の訴訟支援を実施。2009年末には企業内でも国際訴訟における電子証拠開示が可能な電子証拠開示支援システム「Lit i View」(リット・アイ・ビュー)を自社開発し、2011年10月からはクラウドサービスとして「UBIC リーガルクラウドサービス」の提供を開始。

2003年8月8日設立。2007年6月26日東証マザーズ上場。資本金602,993,750円（2012年12月31日現在）。

<本件に関するお問合せ先>

株式会社UBIC マーケティング部 TEL: 03-5463-6344 FAX: 03-5463-6345